

## 動詞化接尾辞「-る」について

堀尾, 佳以  
九州大学大学院比較社会文化学府

<https://doi.org/10.15017/4494675>

---

出版情報 : 比較社会文化研究. 23, pp.83-91, 2008-03-01. 九州大学大学院比較社会文化研究科  
バージョン :  
権利関係 :

# 動詞化接尾辞「-る」について

堀 尾 佳 以

## 0.1 はじめに

「言葉」は生きていて、常に変化し続けるものである。日本語も他の言語と同様に、今日まで使用されながら変化を続けてきた。特に、語彙の拡大の際、例えば、外来語を「な形容詞化」するなど、外来語由来の日本語を造る様々な方法がある。本研究では、動詞化接尾辞「-る」とそれによって作られた新しい語彙に焦点を当てることとする。

## 0.2 目的

語彙は借用などにより、日々拡大し続けている。その中でも動詞化接尾辞「-る」によって造られた動詞は数多く存在する。本研究では、「る言葉について<sup>1)</sup>」(堀尾2000)を参照とし、2007年12月現在までに収集した資料について、言語学的分析を行い、動詞化接尾辞「-る」の持つメカニズムを、言語学的分析により解明し、その特徴をまとめることを目的とする。

## 0.3 意義

語彙の拡大の過程において、動詞化接尾辞「-る」が持っていると考えられるルールを明らかにし、造語のルールの中の一つを示すことができる。これは、「新語・流行語」における造語法の一部とも一致すると考えられるが、これまでは研究分析の対象となりにくく、あまり言及されて来なかった。

先行研究があまりなく、詳しく分析されていない分野である、という点でも意義があると考えられる。

また、新しい語彙や用法は、「若者言葉」に分類されるが、その「若者言葉」を造る際、無秩序・悪ふざけによってではなく、一定のルールがあると考えられる。そのルールを明らかにすることで、日本人が共通して持っている言語感覚についても言及できると考える。

## 0.4 若者言葉とは

日本語は「生きている」言語であり、変化し続けている。これまでも様々な変化があったと思われるが、そのうちの一つとして動詞化接尾辞「-る」が考えられる。

以前から、「若者言葉」は「乱れである」、「美しい日本語が失われる原因である」等の一般認識があり、批判を受けてきた。これは、「若者言葉」が一見、「言葉遊び」であり、他のグループと一線を画した隠語の要素を持っているように見えることから、世間一般に持たれてしまったイメージである。

しかし、実際にそうなのだろうか。先行研究「若者語を科学する」米川(1998)より「若者言葉」はどのようなものかをまとめると、次のようになる。

「若者言葉」とは、

中学生から三十歳前後の男女が、仲間内で、会話促進・娯楽・連帯・イメージ伝達・隠蔽(いんべい)・緩衝・浄化などのために使う、規範からの自由と遊びを特徴に持つ特有の語や言い回しである。個々の語について個人の使用、言語意識にかなり差がある。また時代によっても違う。

では、実際に動詞化接尾辞「-る」に焦点をあて、分析を行うこととする。

## 第1章 動詞化接尾辞「-る」

本章ではまず「る言葉」「動詞化接尾辞の『る』」といわれるものについて言及した先行研究をあげ、「若者言葉」において「動詞化接尾辞『-る』」と関連のある先行研究を挙げる。

### 1.1 動詞化接尾辞「-る」の先行研究

動詞化する「る」に関する先行研究を挙げる。

「若者語を科学する<sup>2)</sup>」

② 若者語の特徴

1 卒業論文

2 米川明彦 明治書院 1998 p. 43

〈文法を変える〉「する」をつけてサ変動詞化する場合、  
 上の名詞は意味上運動性のもの  
 ⇒人を表す運動性でない名詞につける  
 例：女子大生する、梨元する

これまで「する」によっても動詞が作られてきた。しかし、この「する」は最近ではあまり使用されていない動詞の造語法であると言えよう。「する」「る」については2.2.4で詳しく述べる。

「新世代の言語学」社会・文化・人をつなぐもの<sup>3</sup>

viii 日本語を勉強している留学生がこの問題を解こうとすると、まず「コクる」がどの動詞グループに属しているかを考え、次のその動詞グループの活用ルールに沿って「て形」や「ない形」や「ば形」を作るといった意識的作業をしなければならない。これに対して、日本語の母語話者なら、たとえそれが「コクる」のように本来のことばを短縮し、限られた人にしか使われていない若者言葉でも、誰もが同じように、無意識に、しかも瞬時に活用できるのである。なぜならば、そこには私たちが普段意識しないで使っている共有された「ことば」のルールがあるからである。  
 (中略)「文法」とは、皆が使っていることばを観察することでルールを見つけだし、それを記述してできあがったものである。

動詞化接尾辞「-る」の活用について述べられているが、具体的な例や関連資料などは提示されていない。ここでは「はじめに」という部分で書かれている点から、言語学的分析は行われていない。

岩波 日本語使い方考え方辞典 監修：北原保雄

pp. 356-358

「～する」を付けて動詞化する方法は、新語を生み出す原動力ともなっている。

まず、「カタカナ語+する」という形によって新しい動詞を簡単に作ることができる。「フィットする」「ヒットする」「アタックする」「ペーストする」「ゴールインする」など、数限りない。カタカナ語には、とかくの批判もあるが、「～する」の造語力の強さは、「～だ」による形容動詞と並んで、日本語の語彙を拡大することに貢献している。

さらに、「～する」は、本来は動作を意味しないような名詞と結びつくことによって、動詞を作ることがある。「お茶する」「たばこする」などは「お茶を飲む」「たばこを吸う」のはしよった言い方としてかなり前から使われているが、最近では「お嫁さんする」「主婦する」「孝行息子する」「受

験生する」「OLする」「青春する」のように、動作と結びつきにくい名詞にも適用されている。これらは、「いかにも～らしく(まるで～のように)振舞う」「典型的な～の振る舞いをする」といったニュアンスで使われる。俗語的であるので使う場面をわきまえなければならないが、共有のイメージに訴えて言いたいことを簡単かつ的確に表現した巧みな言い方だともいえる。

なお、新しい動詞を作る造語法には、ほかにも「～る」を付けて動詞(五段活用)にする方法もある。「まずる(=失敗する)」「てかる(=てかてか光る)」「ハモる(=和音の響きが出る、同時に発声する)」「メモる」「パロ(=パロディにする)」「パニックる(=パニックに陥る)」などがその例である。しかし、「～する」に比べると、造語力ははるかに低い。また、ほぼ例外なく俗語的なニュアンスを帯びるので注意が必要である。

確かに「する」を付けて動詞化する造語法も存在する。しかし、「数限りない」と言えるほど多く存在しているのだろうか？また、ここに挙げてある「お嫁さんする」や「たばこする」といった用法は、実際には見られない。この出自はどこなのか、はっきりせず使用の状況も明らかではない。

また、「しかし、「～する」に比べると、造語力ははるかに低い。」とあるが、その数値には触れられておらず、どの程度の差があるのか、なぜ「造語力ははるかに低い」のか、説明が不適切である。

ここでは、「～する」の方が「～る」、つまり動詞化の「る」よりも造語力が高いとしているが、その根拠が示されていないためその使用実態に関する研究が必要であろう。

## 1.2 動詞化接尾辞「-る」の関連研究

動詞化接尾辞「-る」と関係のある研究を、以下に挙げる。「る」によって動詞語彙を作る際は省略が多用される。これは、動詞化接尾辞「-る」のルールと関連があると考えられる。つまり「る」を付加するものの拍数との関係があるだろう。特に、外来語の省略との関係が考えられるため、分析を行う際の参考とする。

### 省略による造語

- a 上略：元の語形がわかりにくい (例) (わ)ぎとらしい  
 / (喫)茶店 / (友)達 / (使)い 走<sup>ばしり</sup>
- b 中略：形容詞に多い (例) うっと(おし)い / きも(ち悪)い / フラ(ンス)語 / むず(かし)い
- c 下略：三拍語になる例が多い (例) アクセ(サリー)

3 飯野公一ほか くろしお出版 はじめに p. viii

- ／お気に(入り)／マクド(ナルド)／ワンパ(ターン)
- d 二か所以上を省略：稀 (例) イン(ス)トラ(クター)／コンサ(ー)バ(ティブ)／(う)るせ(え)
- e 複合語の各要素の上部を省略：稀 (例)(セ)ブン(ス)ター／(自動)車(学)校
- f 複合語の各要素の下部を省略：各要素省略2拍+2拍⇒4拍、平板型アクセント  
(例) アメ(リカン)カジ(ュアル)／いた(ずら)電(話)／かて(い)教(師)／百(円)バ(ーガー)
- g 複合語の前項要素の上部と後項要素の下部を省略：  
(例) (試) 験勉(強)／(一) 般教(養)
- h 複合語の前項要素の下部と後項要素の上部を省略：  
(例) バラ(エティ)(アイ)ドル／学(生)(会)館
- i 複合語の前項要素の下部だけを省略：(例) イタ(リア)もの／パー(ティー)券／ポケ(ット)ベル
- j 複合語の後項要素の下部だけを省略：(例) 朝一(番)／家事てつ(だい)／自己中(心)
- k 文や句を短縮：若者語の省略の最も進んだ形態を見ることができ  
(例) きよ(水の)ぶた(いから飛び降りる)／きれ(いな)カジ(ュアル)／どた(んばで)キャン(セル)
- l 複合語の三か所を省略：セ(ー)ラ(ー服)コン(プレックス)／(横)浜(ニュー)トラ(ディショナル)
- 以上の先行研究から、長い拍数を持つ語彙を省略する場合、3拍または4拍到語彙を省略するのを好む傾向が窺えたとされてきた。

### 1.3 先行研究の問題点

動詞化する接尾辞「-る」を付けて作った語彙についての、これまでの研究から次のようにまとめることができる。

★他の品詞を動詞化する接尾辞である。

★「若者言葉」である

先行研究に挙げられているものは例が少なく、言語学の各分野に添って分析したものもあまりないため、本研究ではできる限り多くの語彙を集め、分析することとする。

また、「若者言葉」や「俗語」の要素が強いとされているが、実際は古くから使用されている語彙も同じように動詞化接尾辞「-る」によって作られたものも存在しているのである。例えば、「牛耳る」は夏目漱石が使用したのが始まりとされている。

これまでの「-る」による動詞化語彙は

- ① 出自がはっきりとわからないもの

- ② 使用開始年が定かでないもの
- ③ 現在は使用されていないが、資料には残っているもの<sup>4</sup>
- ④ 地域性のある語(特に固有名詞由来のもの)などがあると考えられる。これらの点に留意し、分析を行いたい。

## 第2章 動詞化接尾辞「-る」の分析

本章では動詞化接尾辞「-る」をもつ動詞の例をできる限り集め、言語学的に分析を行う。

### 2.1 言語学的アプローチ

先行研究によると、分析というよりは、その造語法の紹介にとどまり、語彙の収集と分析はこれまでなされていないようである。

そこで本研究では、動詞化接尾辞「-る」の言語学的特徴を捉えるため、実際の使用例を挙げながら、形態的特徴・意味的特徴を中心に分析を進めていく。

### 2.2 分析結果

2.2では1999年、2006年に動詞化接尾辞「-る」による語彙を、先行研究・参考文献<sup>5</sup>・自然談話資料<sup>6</sup>などから483語を収集した。これらの語彙を言語学的分類によって、それぞれの特徴をまとめる。

実際にどのような語彙があるのか、いくつかを具体的に挙げる。

① デコる、ポシやる、チくる、告る、拒否る、イモる、パクる、ヤニる、等

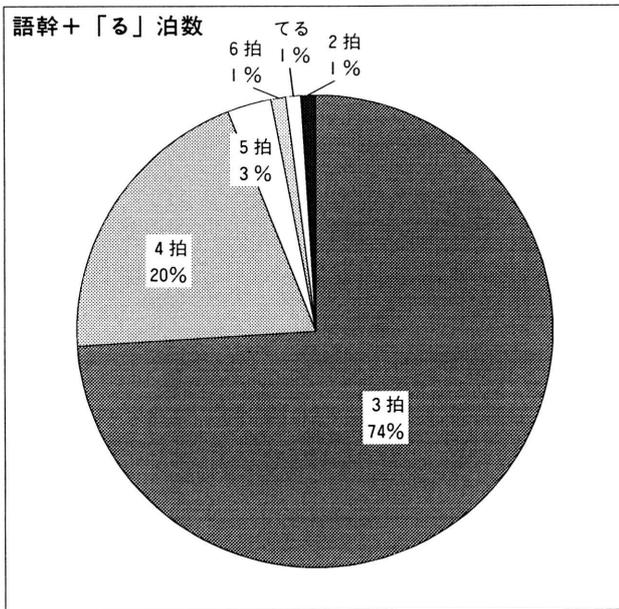
#### 2.2.1 音韻的特徴

動詞化する接辞「-る」によって作られた動詞は省略によって短くされたものが多く、全体の拍数が3拍・4拍となるものが多い。では、実際の内訳はどうであろうか。収集した483語について「-る」を加えた「語幹+る」の拍数をまとめると次のようになる。

4 流行語を含む。

5 先行研究・参考文献を参照。

6 2002年、2006年収集の自然談話録音資料を指す。



「る」を含めた拍数は「3拍」「4拍」を合わせると94%である。つまり、「る」を使って作った動詞は、3拍・4拍が好まれるようである。

### 2.2.2 形態的特徴

付加する語彙、またはその省略語彙に「ーる」を付けるだけで、簡単に動詞にすることができるというのが、動詞化接尾辞「ーる」の基本的な働きである。それでは、形態

的にはどのような特徴があるのだろうか。実例を挙げ、分析する。

#### 2.2.2.1 五段動詞<sup>7</sup>

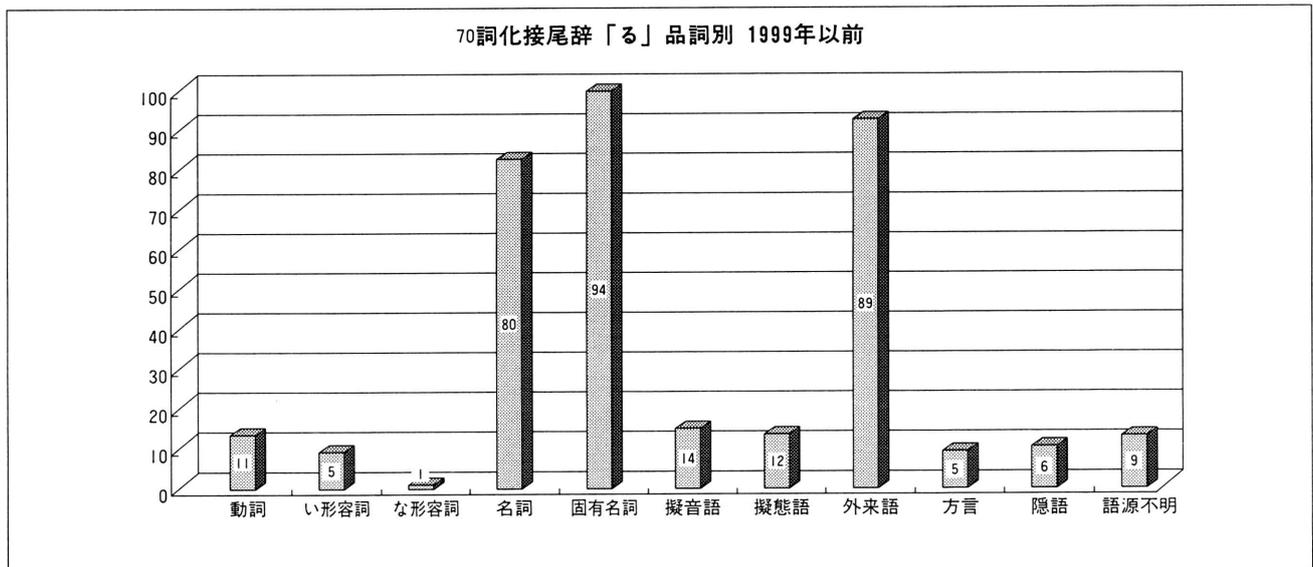
「ーる」により、「動詞である」という標示になる。

動詞化接尾辞「ーる」によって造られた動詞は、いわゆる「五段動詞」と同じ活用をする。「一段動詞<sup>8</sup>」の活用はとらない。そのため、新しく作られた語彙は、どの動詞グループに属するか、またその活用を考える必要はなく、機械的に「五段動詞」と同じように変化させることが出来る。では、なぜ一段動詞ではなく、五段動詞が選択されたのだろうか。

動詞化「る」の語幹となる部分には影響が無い活用をとるため、また、動詞の中では五段が一般的である、つまり、無標であるため五段動詞が選択されたのではないかと考える。

#### 2.2.2.2 付加する品詞

実際にどのような品詞に「る」を付け、動詞化しているのだろうか。1999年以前のもの、2006年に収集した語彙の品詞を分類し、グラフにしたものを以下に挙げ、比較を行う。では1999年以前の「る」によって作られた326の動詞<sup>9</sup>を収集し、品詞により分類すると以下ようになる。

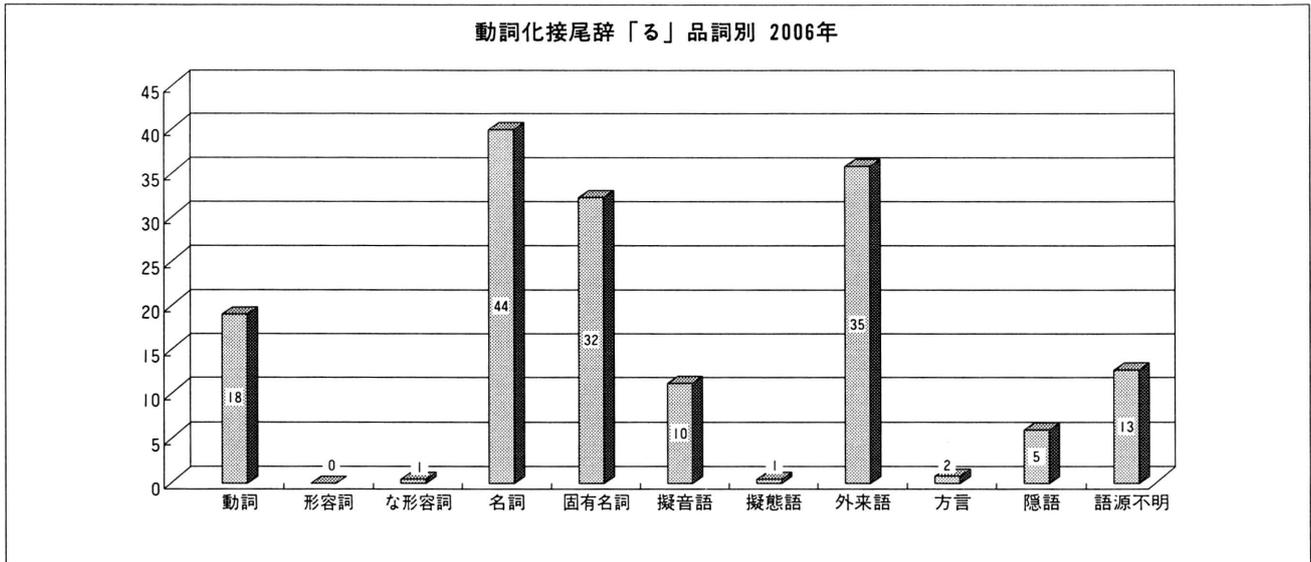


7 日本語教育の分野では「1グループ」と呼ばれる。

8 日本語教育の分野では「2グループ」と呼ばれる。

9 卒業論文「る言葉について」収集資料による語彙の総計が326語彙である。

2006年に収集した157語は次のようになる。



ここに挙げた2つのグラフを参考に、品詞ごとにみる。

①動詞

動詞に「る」を付けたのではなく、省略したものである。形態は異なるためここでは新造語として数える。

①牛耳る、しくる、べしゃる、きばる

②名詞

名詞の示すものようになる、即ち、「(名詞) のようになる」、あるいはその名詞と関わりのある動きをするという意味の動詞を作る。

①昆布る、ご馳る、事故る、しゃぶる

③固有名詞

1999年以前の語彙は、固有名詞が多数使用されていたが、2006年の収集ではあまり無かった。

固有名詞を動詞化する特徴としては、固有名詞が示す店や地名などが判断できる程度に(時には判断できないが)省略して語幹とする傾向がある、ということである。また、人名や一部を除いてほとんどがカタカナ表記されている。

①デニる、ハゲる<sup>10</sup>、ググる、アサヒる

全国的に名の通った固有名詞でももちろん作られるが、その地域でしか通用しない語彙も存在している。

①マクドナルド+「る」⇒ マクる(関東)  
マクどる(関西)

地名や固有名詞の差により、地域性が色濃く出るだろう。

④い形容詞・な形容詞

い形容詞・な形容詞はどのような状態であるかを表す語彙であるため、その語彙を使って動詞を造ることはあまり無いようである。1999年以前と2006年を総合しても、い形容詞・な形容詞、全て併せても8語彙しかなかった。

①ほそる、がめる、エロる、ななめる

⑤外来語

動詞に限らず、語彙を増やすには外来語を取り入れるのが一番手っ取り早い。そのため、外来語が多く使用されることは容易に予測がつく。全体的に見ても約4分の1<sup>11</sup>が外来語である。

①コスメる(cosmenity+る)、  
コンパる(companion+る)  
ステくる(steck+る)、アピる(appeal+る)、  
コピる(copy+る)  
ふいにる(finish+る)、ミスる(miss+る)

⑥その他(語源不明)

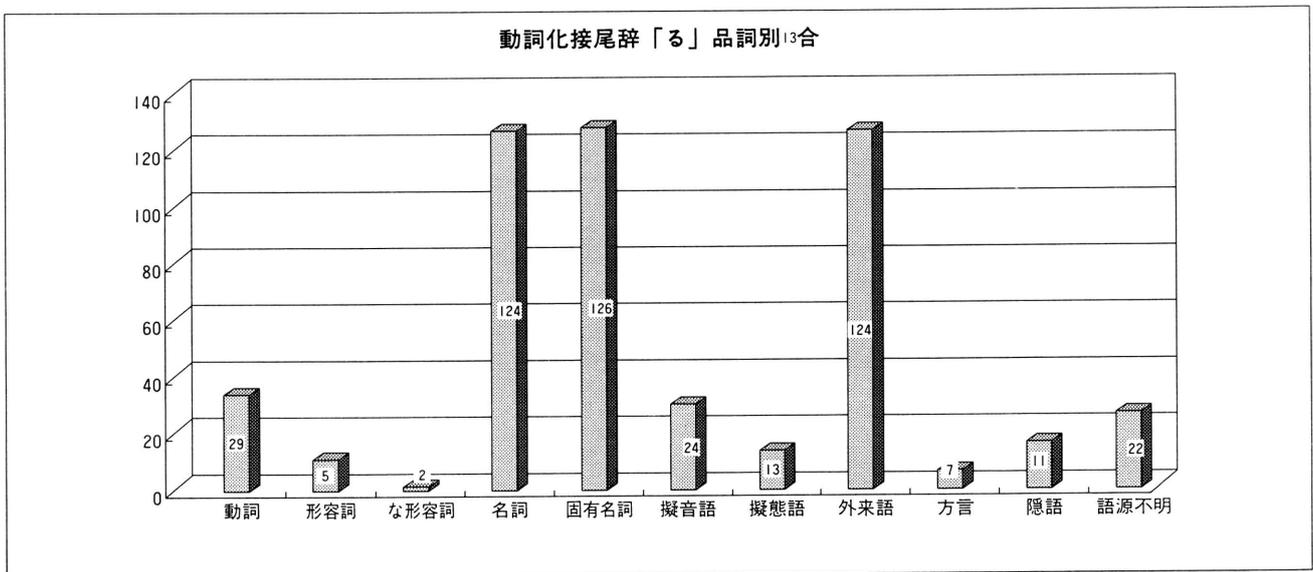
動詞化「る」によって作られた語彙であることは明らかだが、その動詞の語幹となっている語の品詞が分からないものを「語源不明」に分類している。

①いじゃける、かつぎゆる、キケる、だいまる、デボる、ふける、へくる

以上のように、語幹となる語は品詞に偏りがあることが分かった。2006年迄の語彙483語をグラフにすると次のようになる。

10 「ハーゲンダッツへ行く。」という意味で、髪が薄くなる「禿げる」とは異なる。

11 483語中116語が外来語である。(24.01%)



### 2.2.2.3 活用「～てる」

先行研究で、「する」によって作られる動詞や「る」で作られる動詞について語彙をいくつか挙げて紹介していたのだが、「る」で作られた動詞が「五段動詞である」という指摘や実際の活用したものには触れられていなかった。また、先行研究で取り上げられた語彙についても使用された時期など明らかでない場合が多い。最近では「する」によって動詞を作るという方法はあまり使用されていない感がある。変わりによく見かけるようになったのが「～てる」である。

㊦ いけてる、きょどってる、ナルってる

「きょどってる」は「挙動不審な行動をしている」という様子を示す。また、「ナルってる」は「超ナルシストである」となる。つまり、「～てる」は結果の継続を表すため、人や物の状態に使用されることが多い。

この「活用」した「～てる」のみで使う場合が多い。「いけてる」や「ナルってる」は「いける」「ナルる」という形で使用されることはない。

また、「～てる」という型から派生して、「～てく？」という勧誘の例も見られる。勧誘であるので、疑問文としてのみ使われ、文末に「？」が付けられる。

㊦ カフェってく？ チャリってく？

もちろん、「る」を付けて動詞化し、それを「～ている」の形にしたものとも考えられるが、これは「～ている」の形でしか使えないものもある。

### 2.2.3 意味的特徴

他の品詞、特に名詞や固有名詞に「る」を付けて動詞を作るが、品詞の転換だけでなく、意味にも影響があるのだろうか。ここからは品詞ごとに見ていく。

#### 2.2.3.1 動詞

動詞の場合は、省略したものが多い。ここでは、省略された語彙ではなく、元々の語彙とは異なる意味で使用されている語彙を取り上げる。

㊦ キレル、焦げる、落ちる、すべる  
それぞれの語彙を詳しくみていこう。

	新しい意味	従来の意味
キレル	怒りが爆発すること	一続きのものが刃物によって力を加えられたり、引っ張られたりして、離れなければならないになる。
焦げる	日焼けをすること	火で焼けて、黒または茶色になる。
落ちる	チャットから抜けること	高い所から低い所へ移動する。それ自身の重みによって上から下へ移る。
すべる	冗談が受けないこと	物の表面をなめらかに移動する。とどまっていられなくて、なめらかに動く。

ここに挙げた動詞は、これまでも使用されてきた語彙であるが、従来の意味と異なるため、ここでは「造語」として数えた。

#### 2.2.3.2 名詞

名詞のようである、という意味となる。その名詞のようになる変化を示す。

㊦ ブタる、昆布る

#### 2.2.3.3 固有名詞

動詞となった固有名詞が行ったことを模倣する、同じように振舞う事を示す。ある人物が行った行動を取り上げ、「同じような事をする」「同じように振舞う」ことを指す動詞を作る。

㊦ 江川る、阿部る、もりもとる、田淵る

「江川る」は当時野球界で巨人軍の「江川卓」という人物がわがままを言ったため、「江川のようにわがままを言う」ことを指して言った。

「安倍る」は2007年、選挙に大敗したにもかかわらず続投を決めた安倍首相が、突然退任を表明し、全てのことを投げ出した事から、「自分の責任を全て放棄してしまい、逃げること」を指す言葉となった。

このように、ある特定の人物が行った行動の中でも特に問題行動となるものに「る」を付け、そのような行動をすることを批判する意味も込められている。

また、個人名に「る」を付けて動詞にするだけではなく、会社名などにも付けられることがある。

㊦ アサヒる<sup>12</sup>…捏造する。でっちあげる。

この他にも、固有名詞に「る」を付けた動詞、つまり「固有名詞+る」という形で「そこで何かをする」といった意味を加える事ができるものがある。

㊦ マクる、よしぎゆる、デニる、ハゲる

レストランや店の名前を短く省略し、「そこへ行く、そこで食べる」という事を示す。これらの語彙を好んで使うのは高校生・大学生が多い事からか、全体的に値段の安い店が多いようである。

\*ロイホる…ロイヤルホストでご飯を食べること。

また、固有名詞の場合は次のような特徴もある。

「その場所で乗り換え等をする」意味となる。特定の動詞でしか使えないが、固有名詞の中でも地名にのみ付けられる。

㊦ たんばるる…丹波橋で電車（近鉄⇄京阪）の乗り換えをする

このように「固有名詞+る」によって動詞化した語彙は、

全国的に通用するものもあれば、一部地域でしか使えないものも存在している。そのため、全国的なもの地域的なものについて区別すべきではあるが、本稿では一括して分析を行った。地域性については今後の研究に譲る。

このように、固有名詞を動詞化する場合、

①模倣する、同じように振舞う

②ある特定の人物の問題行動をすること、またその批判

③場所の固有名詞で何かをする、その場所へ行く

④その場所で乗り換え等をする

などの意味を加えるということが分かった。

#### 2.2.3.4 擬音語・擬態語

擬音語・擬態語を動詞にして、その語が表す様子である、という意味となる。

ガボる	ガボツとはまる
グサる	グサツとささる
ウダる	ウダウダする
キャピる	キャピキャピはしゃぐ
ダボる	ダボダボのルーズソックスを履く
テカる	顔が皮脂でテカテカ光る

擬態語は4音節のものや畳語であることが多いため、そのうち2音節のみを使用し、語幹としているようである。その状態を伝えるだけでなく、「そのようにする」という意味を加えて動詞としている。

#### 2.2.3.5 外来語

外来語を「る」により動詞化して作った語彙は、485語のうち、116語と多い。この外来語の動詞は、英語を日本語に訳して、その意味を持つ動詞にしている。

動詞化語彙	元の語彙	品詞	外来語の意味	動詞化接尾辞「る」による意味
サボる	Sabotage	名詞	破壊活動	授業や仕事などを抜け出して休む事
テる	Tel	名詞	電話	電話をかける
タクる	Taxi	名詞	タクシー	タクシーに乗る
バグる	Bug	名詞	PC 処理上の誤り	パソコン等が壊れる、おかしくなる
パニックる	Panic	動詞	あわてふためく	パニックに陥る

12 朝日新聞社が『アベする』なる語句を創出し、明確な根拠なく「(若者の間で)この言葉が流行している」と捏造としか考えられない記事を書いてまで、自らの論調に相容れない安倍首相（当時）を執拗に攻撃したことから出来た語彙。（「はてなダイアリー」より）  
<http://d.hatena.ne.jp/keyword/%A5%A2%A5%B5%A5%D2%A4%EB>

外来語そのものの意味を使用するだけでなく、日本語の五段動詞と同じ活用をする語彙に変えるものが多い。動詞化接尾辞「-る」は、名詞や他の品詞を動詞にするのに使用されてきた接辞であるが、日本語だけではなく、外来語を動詞化する際も使用されている。

### 2.3 まとめ

本研究で分析した動詞化接尾辞「-る」の特徴をまとめると次のようになる。

- ①動詞化「-る」は五段動詞の活用<sup>13</sup>をとる。
- ②名詞、固有名詞などに付加し、
  - ・その名詞、固有名詞のようである
  - ・そのように行動する
  - ・固有名詞（店名）へ行く／で食べる
  - ・名詞、固有名詞の特徴を持つ
 といった意味を付加する。
- ③外来語、擬音語・擬態語などに付けて五段動詞を作る。

### 3. おわりに

語彙を増やすということは、その言語が生きていることを示す証拠であろう。動詞を新たに増やすが、動詞化接尾辞「-る」によって作られる動詞は、同じ活用を使用するよう、現時点では五段動詞とされていることが分かった。また、意味的特徴としては、品詞ごとによって異なるが、それぞれの語彙が持つ特徴と関わる意味を加えている。

今後の課題としては、

- ①動詞化接尾辞「-る」の現状【死語・定着語・新語】
- ②動詞化接尾辞「-る」と語幹最終音節
- ③動詞化された外来語の、元となった語彙の品詞と動詞化の関係
- ④新語である動詞の活用実態
- ⑤動詞だけでなく、省略語彙の拍数とその傾向

以上のような点が解明すべき点として挙げられるため、今後も資料を収集するとともに研究を進めていきたい。

### 参考文献

- 秋月高太郎 (2004). 「ありえない日本語」, ちくま新書  
 井上史雄 (1998). 「日本語ウォッチング」, 岩波新書  
 井上史雄他 (2002). 「辞典〈新しい日本語〉」, 東洋書林  
 奥山益朗編 (1974). 「現代流行語辞典」, 東京堂出版  
 北原保雄監修 (2003). 「日本語使い方考え方辞典」, 岩波書店  
 北原保雄監修 (2006). 「みんなが国語辞典!」これも、日本語／「もっと明鏡」委員会編  
 堀尾佳以 (2000). 「ぼかし言葉について」, 修士論文  
 米川明彦 (1998). 「若者語を科学する」, 明治書院  
 米川明彦 (1998). 「現代若者ことば考」, 丸善ライブラリー  
 飯野公一ほか (2003). 「新世代の言語学」くろしお出版

13 1グループであることを示す。

### 参考資料

- 都染直也 (1992). 「甲南大学キャンパスことば辞典」, 1990年度・1991年度国語学特殊講義  
 永瀬治郎 (1993). 「専修大学キャンパス言葉事典」,  
 高山勉 (1994). 「キャンパス用語集」

## Verb- Derivational Suffix -Ru

Kei HORIO

In this paper, I make an examination on Verb- Derivational Suffix -Ru in modern Japanese because previous works rarely focus on it.

Through this paper, my study claims that, firstly, there are so many words that were coined by Verb- Derivational Suffix “-Ru”.

Secondly, and more importantly, there are some rules in words created by Verb - Derivational Suffix “-Ru” which make an enlargement of Japanese verbs. (1) Verb - Derivational Suffix “-Ru” changes in the same way as 5-dan verb.

(2) Verb - Derivational Suffix “-Ru” is added to some nouns and proper nouns and has new meanings that are different from original ones.

(3) Verb - Derivational Suffix “-Ru” is added to some loan words, onomatopoeic words and mimetic words.

As above, Verb - Derivational Suffix “-Ru” extends Japanese verbs more and more.